

東北地区高等学校PTA連合会 仙台大会へ参加して

会長：根本みゆき

テーマ：「復興から創生へ 集え！伊達の地に」～子どもたちの夢を応援するPTA活動～

平成28年7月7日（木）江陽グランドホテル・8日（金）仙台サンプラザにて開催されました。

7日は、仙台市沿岸部の被災された小学校や、キリンビール仙台工場の見学をし、東日本大震災の被災状況や様子を、映像などを通して教えて頂きました。

情報交換会では、全国高等学校PTA連合会・佐野元彦会長、福島県PTA連合会の田中清美会長さんなどから、昨年12月にふたば未来学園高等学校に役員の方々7名の方が来校頂き、子供たちの様子や学校の状況を視察研修に訪れた際の感想を交えてご挨拶頂きました。

8日は、東北地区の各高校の役員の皆様方総勢600人を超える方が参加され、全国高等PTA連合会理事・木戸浩久様からも祝辞の中で、視察研修の際の話を交え、先日の熊本地震で自らも被災され、発災直後「すべてが終わった」と、感じたけれど、ふたば未来学園高等学校へ視察に訪れた際に、先生方の熱い思いと支援のもと、明るく前向きな生徒たちの姿を見た事を思い出し、まだまだ大変な生活環境の中でも子供たちが頑張っているのに自分たちも震災なんかには負けられないと、自分を奮い立たせたと挨拶に話されました。

次に、宮城教育大学 教授 田端健人氏による、

「地方創生の主役となる子どもを守り育てるために」～東日本大震災の学校災害を教訓として～

講演があり、今回の東日本大震災の際の死亡率について、小学生・中学生・高校生では、高校生が一番高いということ。その理由として、震災が起きた時間に学校にいなかった為に自主的に回避出来なかったとのこと。その為、今後の課題として大切なことは、

- *次の大震災には、犠牲者の数を可能な限り減らすこと。
- *引渡し後の犠牲者を減らすこと。
- *高校生の自律的な危険察知能力、判断力、行動力を育成していくこと。

しかし、教育現場では、大学進学へ焦点化した隙のないカリキュラムやハードスケジュールの部活動など、こうこう中で難しいのではないかと考えられる。でも出来ない要因をあげれば、まだまだたくさんあるが、出来ない要因がたくさんあるとしても事態の深刻さを受け止めるならば、困難を克服する方法は見つかるはず。とも話され、高校生は、危険を察知し、情報収集し自ら考え行動する力を潜在的にもっているとも話されました。

